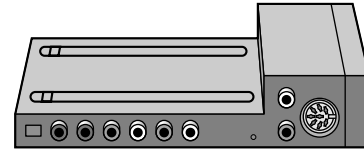


Panasonic

マルチチャンネルAVマスターユニット

取扱説明書



品番

CA-TU9200D



保証書別添付

このたびは、パナソニック カーオーディオをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと保存し、必要なときにお読みください。
保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

CA-TU9200Dで広がる カーサウンド&DVDビデオ・カーシアターシステム

デジタルサラウンドデコーダー内蔵

別売のDVD-VideoプレーヤーとのシステムアップでDVDビデオ5.1chサラウンドシステムを実現
光ファイバーケーブル(デジタル音声接続用)を付属

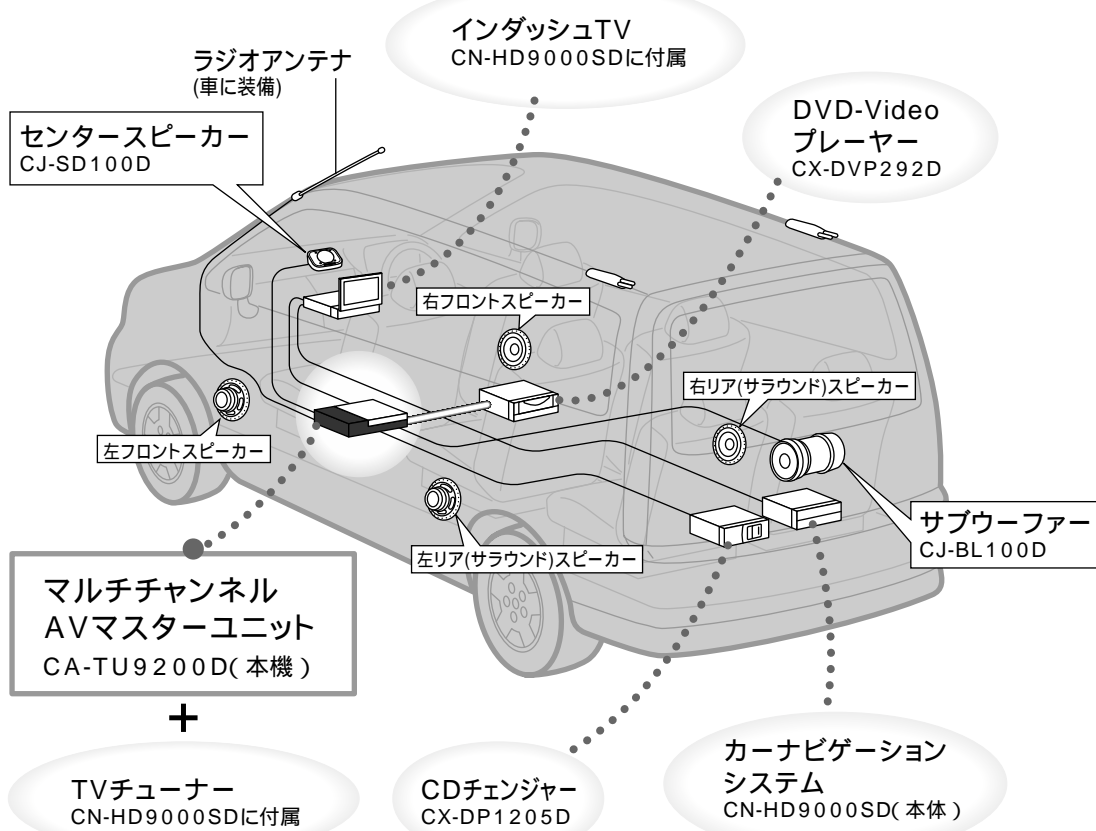
FM/AMチューナー内蔵

高音質45W×4chパワーアンプ搭載

35Wのセンタースピーカー用アンプ搭載

MD/CDチェンジャーコントロール機能

ツインチェンジャーコントロールユニット(品番:CA-LA9D)を使用すると、最大2台まで接続できます。



本機をご使用になるには、下記のいずれかの別売品が必要です。

必ず付属の光ファイバーケーブルで接続してください。

- ・7V型ワイドVGAインダッシュTV付HDDカーナビゲーションシステム:(CN-HD9000SD)
- ・7V型ワイドインダッシュTV/DVD-VIDEOプレーヤー:(CY-TVD9200D)

5.1chサラウンドシステムの準備

1 スピーカーを設置する

フロントスピーカー(左右)(FRONT)
左右のフロントスピーカー(フロントドア埋め込み型など)を使用します。
サラウンドスピーカー(左右)(SURROUND)
左右のリアスピーカー(リアドアやリアトレ埋め込み型など)を使用します。
センタースピーカー(CENTER)
車のダッシュボードの中央付近(モニターの近く)に設置します。
サブウーファー(SUB-W)
他のスピーカーほど、設置する位置に左右されないで、お好みの場所に設置します。
アンプ内蔵サブウーファーが必要です。

2 スピーカーの設定・調整をする (8ページ)

サラウンドスピーカー・センタースピーカー・サブウーファーを取り付けない場合も、音声のバランスを調整するため、必ずスピーカーの設定・調整を行ってください。

付属品・添付品について

付属品: 本機には、配線・取り付けに使用する部品が付属されています。
17ページをご覧ください。

添付品: 取扱説明書(本書)/保証書/お客様ご相談窓口一覧表

7型ワイドインダッシュTV/DVD-VIDEOプレーヤー(CY-TVD9000D)、または7型ワイドインダッシュTV/CDプレーヤー(CY-TVC7000D)とは接続しないでください。接続しても正常に動作しません。

安全にお使いいただくために	4
使用上のお願い	7

システムアップに応じて

音声を楽しむには	8
スピーカーの設定、調整をする	8
ビデオ入力の音声入力レベルを調整する	10
音質を調整する	10
音声チャンネルを設定する	12
音場設定(SPACE)	14
音声記録方式について	15
ラジオを聞く	16
CDチェンジャー/MDチェンジャーの再生	16
ナビゲーション音声案内中の本機の音量を設定する	16

操作方法については、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

取り付け・配線の前に	17
取り付けかた	18
配線のしかた	20
基本配線(付属コードの接続)	20
ナビゲーションなどを接続する	22
2台のチェンジャーを接続する(ツインチェンジャー)	24

故障かな!?	25
お手入れのしかた	26
仕様	27
アフターサービスについて	裏表紙

安全にお使いいただくために

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は、絵表示の一例です。)



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告

運転者は走行中に操作をしない
また画像・表示を注視しない



禁止

走行中の操作や画面・表示の注視は、前方不注意による交通事故の原因になります。
必ず安全な場所に停車させてから操作してください。

取り付け・アース配線等に、保安部品を絶対に使わない



禁止

保安部品(ステアリング・ブレーキ系統・タンクなど)のボルト・ナット・ビスを使用すると、事故の原因になります。
説明に従い、付属品や指定の部品を使用してください。

DC 12 V \ominus アース車で使用する



本機はDC 12 V \ominus アース車専用です。DC 24 V車(大型トラック、寒冷地仕様のディーゼル車など)には使用できません。火災や故障の原因になります。

配線・取り付け作業中は、
バッテリーの \ominus 端子を必ずはずす



バッテリーの \ominus 端子をつないだまま配線・取り付け作業をすると、ショート事故による感電やけがの原因になります。



警告

故障や異常のまま使用しない



禁止

万一、故障(画像が映らない、音が出ないなど)や異常(異物が入った・水がかかった・煙が出る・異臭がするなど)が起こった場合は、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店、またはお近くの「ご相談窓口」(別紙)に相談してください。
そのまま使用を続けると、事故や火災・感電の原因になります。

必ず規定容量のヒューズを使用する
また、交換は専門技術者に依頼する



規定容量を超えるヒューズを使用すると、発煙・発火、故障の原因になります。ヒューズの交換や修理は、お買い上げの販売店、またはお近くの「ご相談窓口」(別紙)に依頼してください。

コード類は、運転や乗り降りの妨げにならないように引き回す



ステアリング・シフトレバー・ブレーキペダル・足などに巻き付かないように引き回し、まとめたり固定しておくなどしてください。
事故やけがの原因になります。

指定に従って設置・配線する



説明に従って正しく設置・配線しないと、事故や火災の原因になります。

分解・修理、および改造をしない



分解禁止

分解・修理、改造、コードの被覆を切って他の機器の電源を取るのはやめてください。火災・感電、故障の原因になります。

車のパイプ類・タンク・電気配線などの位置を確認して取り付ける



車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類・タンク・電気配線などに干渉や接触しないようにしてください。火災や事故の原因になります。

⚠ 注意

コードを破損しない



禁止

断線やショートにより、感電や火災の原因になることがあります。
車体やねじ・可動部(シートレールなど)への挟み込みで破損しないように引き回す。
傷つける、無理に引っ張る、折り曲げる、ねじる、加工する、熱器具へ近づける、
重いものをのせるなどしない。

配線・取り付けは、専門技術者に 依頼する



配線・取り付けには専門技術と
経験が必要です。
安全のため、必ずお買い上げの
販売店に依頼してください。

水のかかる場所、湿気や埃の多い 場所で使用しない



禁止

発煙・発火・感電・故障の原因
になることがあります。
特に洗車や雨のときなどに、水が
かからないようにしてください。

必ず付属品や指定の部品を使用する



指定以外の部品を使用すると、
機器の内部を損傷したり、しっ
かり固定できずにはずれるなど、
事故や故障、火災の原因になる
ことがあります。

機器内部に異物を入れない



禁止

内部に金属物や燃えやすいもの
などが入ると、ショートや絶縁
不良で発熱し、火災や感電、故
障の原因になります。
特に乳幼児にご注意ください。

本機の放熱板をふさがない



禁止

内部に熱がこもり、発火や故障の
原因になることがあります。

携帯電話を使用する場合は

携帯電話を置く位置や向きによっては、雑音を生じることがあります。できるだけ本機から離して使用してください。

本機の取り扱いについて

車載用以外には使用しないでください

車載用以外(例えばレジャーポートやアウトドアなど)に使用すると、感電やけが、故障の原因になる場合があります。

免責事項について

火災、地震、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他の異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害(事業利益の損失、記録内容の変化・消失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。

商品に添付の保証書は、当該商品を業務用の車両(バス・タクシー・商用車など)に使用した場合、適用対象になりません。

システムアップに応じて音声を

楽しむには

スピーカーの設定、調整をする

必ず、ご使用前に1～3の順序でスピーカーの各設定を行ってください。

1 各スピーカーの有無・大きさを設定する

LARGE : 大型で、100 Hz以下の低音が再生できるスピーカー

SMALL : 小型で、100 Hz以下の低音の再生が困難なスピーカー

NONE : センター/リア (サラウンド) スピーカーを使用しない場合

YES : サブウーファーを使用する場合

NO : サブウーファーを使用しない場合

設置したスピーカーシステムに合わせて設定します。

フロントスピーカー (FRONT)
 LARGE SMALL から選ぶ

センタースピーカー (CENTER)
 LARGE SMALL NONE から選ぶ

サラウンドスピーカー (SURROUND)
 LARGE SMALL NONE から選ぶ

サブウーファー (SUB-W)
 YES NO から選ぶ

2 各スピーカーの出力レベルを調整する

全てのスピーカーから均等なレベルで音声を出力させるために、スピーカーごとに出力の差を補正します。

調整範囲 : -12 dB ~ +12 dB

テスト信号 (「ザー」という音) が一番小さく聞こえるスピーカーを基準にして、他のスピーカーが同じ音量で聞こえるように調整してください。

3 各スピーカーの音が視聴位置に届くタイミングを調整する

本来、視聴位置と各スピーカーの距離は全て同じであることが理想です。車の形状などの制約のため、視聴位置と各スピーカーとの距離が均等にならないときは、各スピーカーから音声が出力されるタイミングを調整することで、距離の差による音のずれを補正できます。

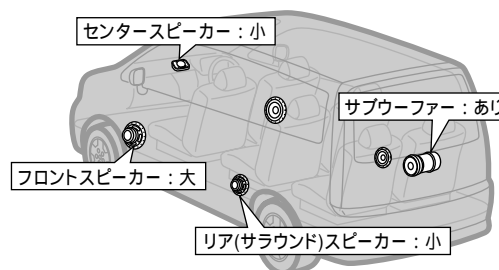
調整範囲 : 0 ms ~ 5 ms (センタースピーカー)
 0 ms ~ 15 ms (サラウンドスピーカー)

1 ms = 0.001秒

「0 ms」は出力タイミングが同じ

フロントスピーカーの出力と同じタイミングで聞こえるように調整してください。
 ソフトを再生しながら調整してください。

例



左図のようにスピーカーを設置した場合には、下記のように設定します。

FRONT : LARGE

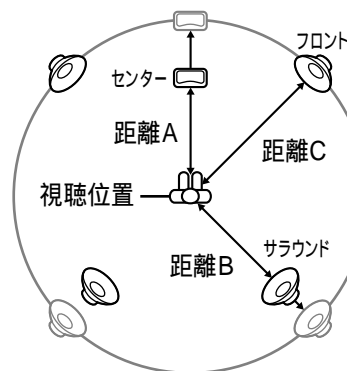
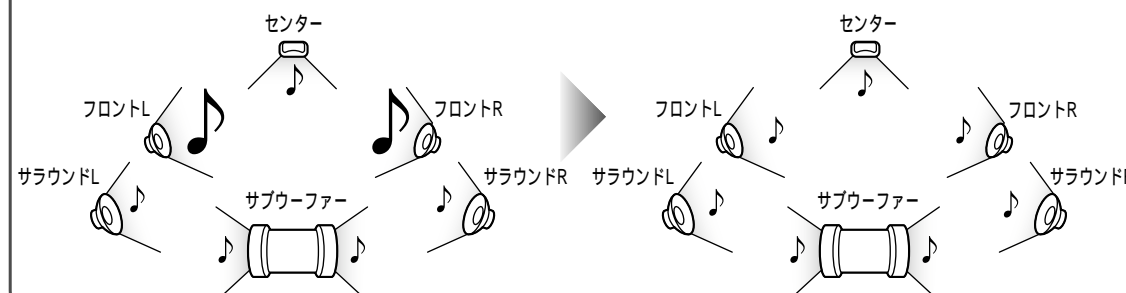
CENTER : SMALL

SURROUND : SMALL

SUB-W : YES

調整前

調整後



センタースピーカーの調整

距離A 距離Cのとき : 0 msに調整する。
 距離A < 距離Cのとき : 距離に応じてディレイタイムを調整する。

サラウンドスピーカーの調整

距離B 距離Cのとき : 0 msに調整する。
 距離B < 距離Cのとき : 距離に応じてディレイタイムを調整する。

視聴位置が車の前席の場合は、0 msに設定してください。

距離A : 視聴位置からセンタースピーカーまで
 距離B : 視聴位置からサラウンドスピーカーまで
 距離C : 視聴位置からフロントスピーカーまで

ドルビーサラウンドのときは、自動的にサラウンドスピーカーのディレイタイムの設定値に15 msが加算されます。

システムアップに応じて音声を楽しむには

ビデオ入力の音声入力レベルを調整する

DVDプレーヤーなどの機器を接続した場合は、必ず下記の設定を行ってください。

VTR (VTR1/VTR2) の
音声入力レベルを設定する

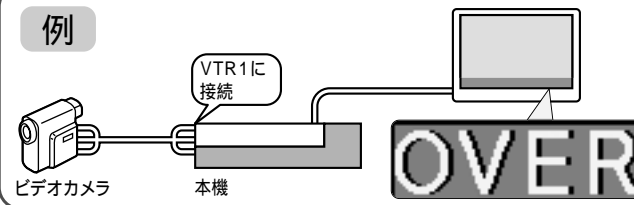
調整範囲：- 18 dB ~ 0 dB
ビデオ入力の音声入力レベルが過大な場合、適正な音声が出力されなくなります。「OVER」の表示が出ないように音声入力レベルを調整してください。

デジタル入力された音声の
出力モード (VTR1/VTR2) を
設定する

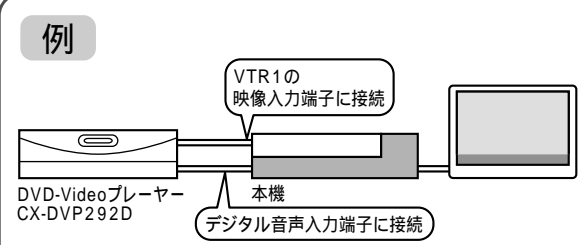
お好みのモードを選択します。

- OFF : デジタル音声入力しない
- VTR1 : VTR1に接続した場合
- VTR2 : VTR2に接続した場合

必ずRCAコード(映像用)を接続した端子に合わせて設定してください。



左図のように接続し、VTR1に切り替えたときに、画面上に「OVER」と表示され、音声が割れる場合には、「OVER」の表示が消えるまで音声入力レベルを下げると、適正な音声が出力されます。



左図のように接続した場合には、「VTR1」に設定します。

音質を調整する

ドルビーデジタルのDVDビデオ再生中に、セリフなどの小さい音を聞きやすくしたり、アナログ音声の音質(周波数帯域ごとの出力レベル)をお好みで調整するとき設定します。

小音量で聞くときに臨場感を維持する
(ダイナミックレンジ圧縮：DR COMP)

ドルビーデジタル/ドルビーサラウンドの
DVDビデオ再生時のみ有効

ダイナミックレンジコンプレッション設定

- OFF : 圧縮しない、映画館そのままのモード
- STD : ソフトの制作者が小音量での視聴用として推奨するモード
- MIN : 最も圧縮した、テレビ放送などに近いモード

ダイナミックレンジコンプレッションレベル調整
(ダイナミックレンジコンプレッションが「STD」時のみ)
高音域または低音域の圧縮率を調整してください。
高音域の圧縮率 (H CUT)
低音域の圧縮率 (L BOOST)
(調整範囲：0.0 ~ 1.0)
0.0は「OFF」と同じ

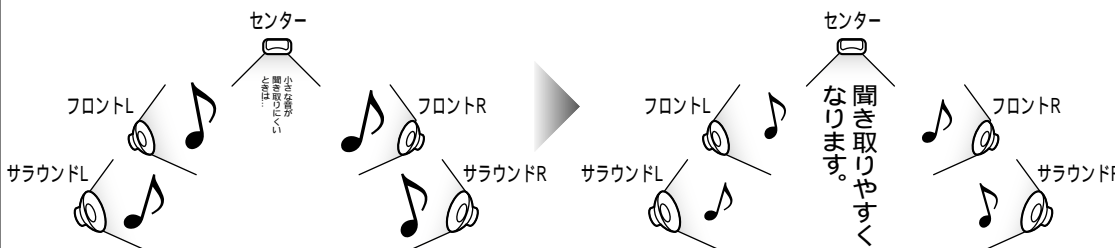
周波数ごとにレベルを調整する
(グラフィックイコライザー)

アナログ音声 (TV、VTR1、VTR2、ラジオ、CH-C) または2チャンネルの音声 (リニアPCM、ドルビーデジタル2 chなど) に対して有効

各周波数帯域 (7バンド) のレベルを調整します。
調整範囲：- 12 dB ~ + 12 dB
最大6パターンまで記憶させることができます。(プリセットメモリ)

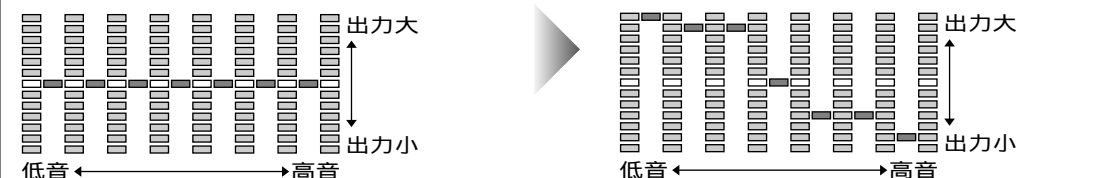
小さな音 (映画のセリフなど) が聞き取りにくいときは...

「MIN」に設定すると、聞き取りやすくなります。



出荷時は、すべての音域が中程度のレベルで設定されていますが...

低音域を強調し、高音域を抑える場合は、下記のように設定します。



使いかた

システムアップに応じて音声を楽しむには

音声チャンネルを設定する

ドルビーデジタル/dts5.1チャンネルの音源を2チャンネルで聞いたり、2チャンネルの音声やアナログ音声を4チャンネルで聞くことができます。

ドルビーデジタル/dtsの音声を2チャンネルに変換する (ダウンミックス)

小さい音声が聞き取りにくいときは、ダウンミックスすると、聞き取りやすくなります。(ただし、音声は2チャンネルになります。)ドルビーデジタルのDVDビデオを再生している場合は、ダイナミックレンジ圧縮も、小さい音を聞き取りやすくなります。

ダウンミックスすると...

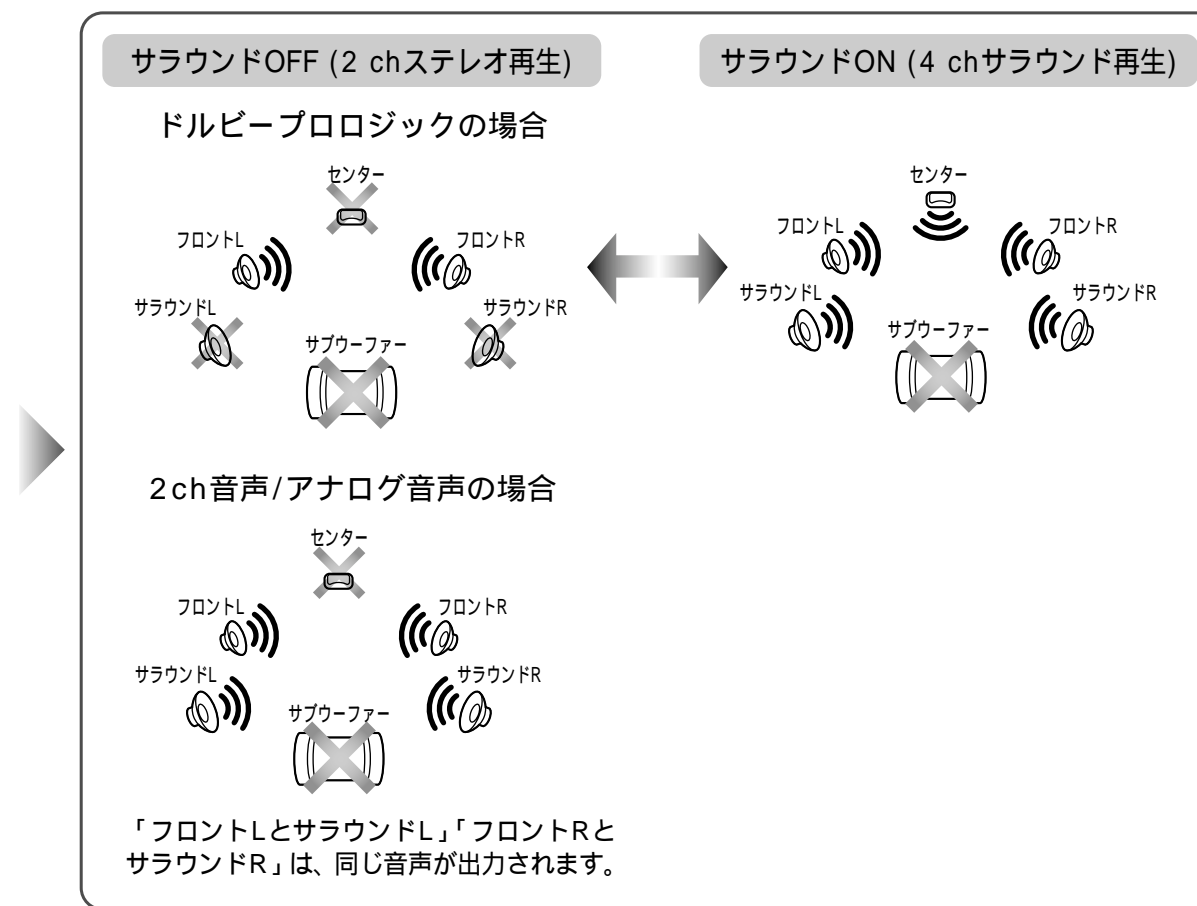
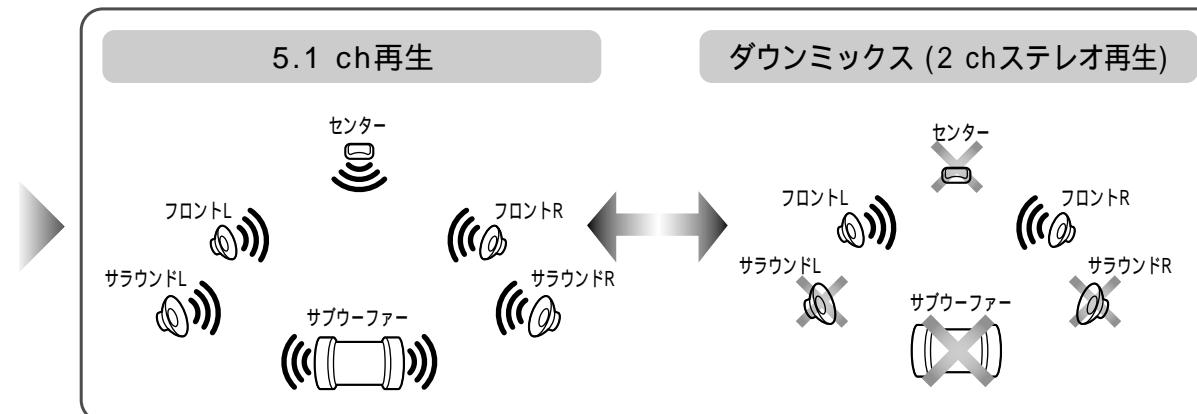
センター、サラウンドの信号をフロントLとR (2 ch ステレオ) に合成して出力します。センター、サラウンドスピーカー、サブウーファーから音声が出力されなくなり、フロントスピーカーから出力される音声が若干大きくなります。スピーカー設定で、フロントL、フロントRを「SMALL」に設定すると、サブウーファーからも、音声が出力されます。

ドルビーサラウンドで収録されている音声を、4チャンネルで聞く (サラウンド設定)

ドルビーサラウンドのDVDビデオ再生時に有効アナログ音声 (VTR1、VTR2、CH-C) や2チャンネルの音声 (リニアPCM、ドルビーデジタル2 ch など) は、ドルビーサラウンドで収録されていなくても、サラウンド4チャンネル出力ができます。音場を設定すると (p.14 ページ)、サラウンド設定が「OFF」になります。

サラウンドONにすると...

2チャンネルの音声を、左フロント、右フロント、センター、サラウンドの4チャンネルに変換して出力します。(サラウンドLとサラウンドRからは、同じ音声が出力されます。)



お知らせ

サブウーファーから音声が出力されない場合は、25ページをご覧ください。

音場設定 (SPACE)

音場を設定する

(SPACE)

アナログ音声 (TV、VTR1、VTR2、ラジオ、CH・C) と2チャンネルの音声 (リニアPCM、ドルビーデジタル2 chなど) のみ有効

2 chにダウンミックスした音声は、音場効果を設定できません。

「OFF」または「VOCAL」に設定すると、サブウーファーからは音声が出力されません。音場を設定すると、サラウンド設定が「OFF」になります。

モードごと (ラジオはAM・FMごと) に、設定できます。

実際に会場にいるような音場を車室内に創り出します。

お好みの音場を選択してください。

- OFF : 音場効果なし
- MULTI-CH : 2チャンネルの音声を5.1チャンネルに振り分けて出力する
- LIVE : ライブハウスのような音場効果
- HALL : コンサートホールのような音場効果
- JAZZ : ジャズを聞くのに適した音場効果
- STADIUM : スタジアムのような音場効果
- DISCO : ディスコのような音場効果
- VOCAL : 歌声を聞くのに適した音場効果
- CATHEDRAL : 教会のような音場効果

お知らせ

サブウーファーから音声が出力されない場合は、25ページをご覧ください。

音声記録方式について

ドルビーデジタル (DOLBY DIGITAL)

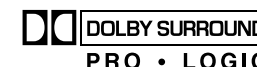
音声信号を、左フロント、右フロント、センター、左サラウンド、右サラウンド、サブウーファー (0.1 チャンネル) の5.1チャンネルに「分解」して記録・再生する完全ディスクリート (分割) 方式です。

記録されているチャンネル数は、ソフトによって異なります。(1~5.1 チャンネル)



ドルビーサラウンド (DOLBY PRO LOGIC)

左フロント、右フロント、センター、モノラルサラウンド の4チャンネル信号を2チャンネルで記録し、それをドルビープロロジックデコーダーで解析して再度4チャンネルに出力する方式です。



DTS (Digital Theater Systems)

ドルビーデジタルを上回るデータ量で、より高品質のサラウンドが再生できる方式です。ドルビーデジタルと同様に、音声信号を左フロント、右フロント、センター、左サラウンド、右サラウンド、サブウーファー (0.1 チャンネル) の5.1チャンネルに「分解」して記録・再生する完全ディスクリート (分割) 方式です。

記録されているチャンネル数は、ソフトによって異なります。(1~5.1 チャンネル)



LPCM (リニアPCM)

アナログ音声を圧縮せずにデジタルに置き換えられた信号を、2チャンネルで記録した方式です。

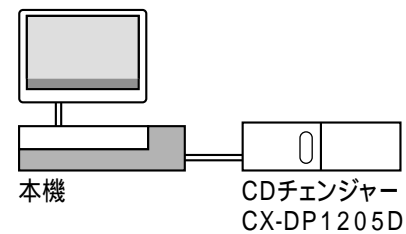
ラジオを聞く

FM/AMチューナーを内蔵しているので、FM/AMラジオを聞くことができます。
詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

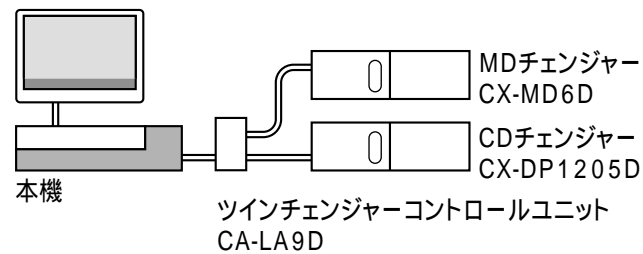
CDチェンジャー/MDチェンジャーの再生

本機は、チェンジャーコントロール機能を搭載しています。
CDチェンジャーまたはMDチェンジャーを接続して楽しむことができます。(最大2台)
詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

例



例：2台のチェンジャーを接続する場合は...



接続可能なチェンジャーは...

- CDチェンジャー : CX-DP801/DP650/DP600/DP1205/1203 D
- MDチェンジャー : CX-MD6D

(2002年4月現在)

ナビゲーション音声案内中の本機の音量を設定する

CN-HD9000SDを本機に接続した場合には、ナビゲーションの音声案内中や音声認識中に、本機の音声をミュートすることができるので、音声案内が聞きとりやすくなり、音声認識の認識率も上がります。

- 0 : 本機の音量が通常のまま
- 10 : 本機の音量が約1/3に下がる
- 20 : 本機の音量が約1/10に下がる
- : 本機の音量が0になる(消音)

詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

警告

分解・修理、および改造をしない



分解禁止

分解・修理、改造、コードの被覆を切って他の機器の電源を取るのはやめてください。火災・感電、故障の原因になります。

取り付け・配線部品の確認

万一不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

取り付け関係

品名	個数
タップタイトねじ (M 3 × 6 mm)	2
バインドねじ (M 5 × 8 mm)	4
座付きタッピンねじ (φ6 × 20 mm)	4
座付き六角ナット (M 5)	4
L型金具	2
ベース金具	2
粘着テープ (35 mm × 80 mm)	2
マジックテープ (16 mm × 97 mm)	2

配線関係

品名	個数
電源コード	1
センタースピーカーコード (15 cm)	1
センタースピーカー延長コード (3 m)	1
アースコード (60 cm)	1
ラジオアンテナ延長コード (3 m)	1
光ファイバーケーブル(デジタル音声接続用: 3 m)	1

お願い

必ず付属ねじを使用してください。

注意

配線・取り付けは、専門技術者に依頼する



配線・取り付けには専門技術と経験が必要です。安全のため、必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

作業の順序

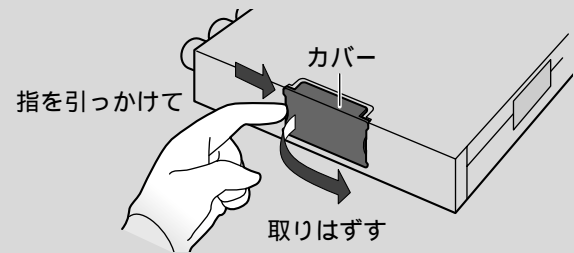
- ① バッテリーの⊖端子をはずす。
- ② 配線する。(☞20～24ページ)
接続する各機器の説明書も併せてよくお読みのうえ、配線してください。
ショート事故防止のため、電源コードのコネクターは、全ての配線をすませてから接続してください。
- ③ 取り付ける。(☞18～19ページ)
- ④ バッテリーの⊖端子を、もとに戻す。

取り付け・配線の作業時は、安全のため必ず手袋を使用してください。

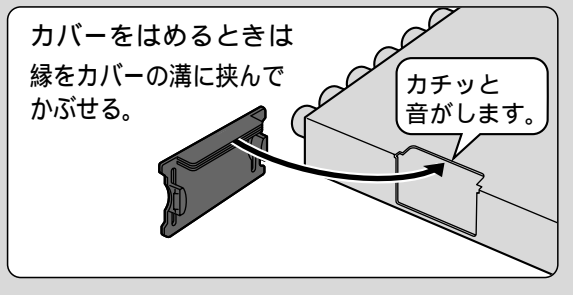
取り付けかた

1 TVチューナー (別売品に付属) を本機 (CA-TU9200D) と接続する。

カバーをはずしてください。

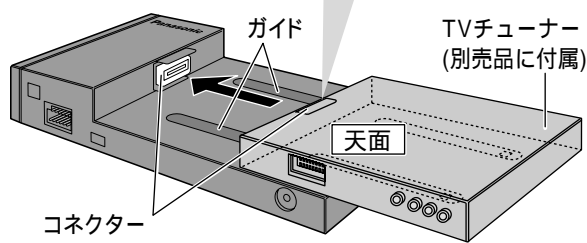


カバーをはめるときは
縁をカバーの溝に挟んで
かぶせる。



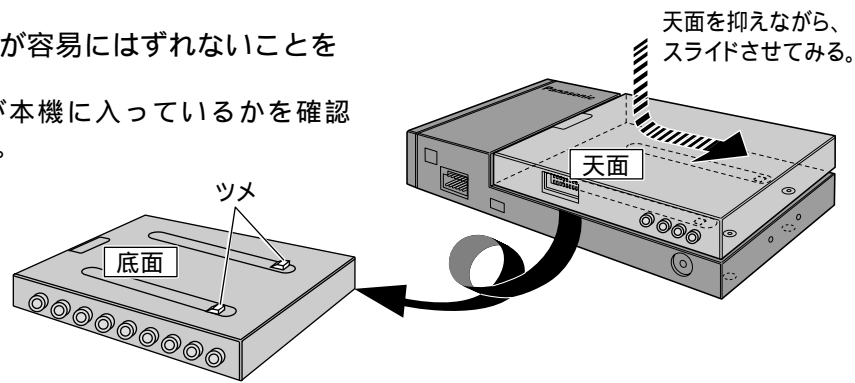
① ガイドに沿ってTVチューナーをスライドさせる。

コネクターの根元まで、確実に差し込んでください。
TVチューナーの底面にマジックテープが貼ってある場合は、取り除いてください。



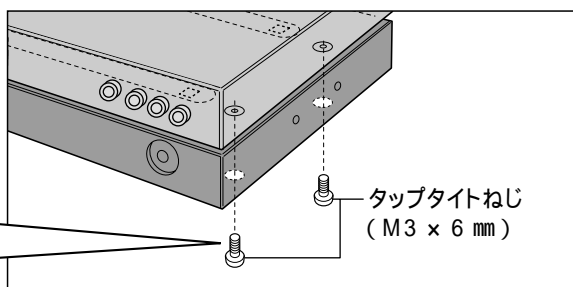
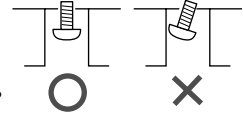
② TVチューナーが容易にはずれないことを確認する。

底面のツメが本機に入っているかを確認してください。



③ ねじでしっかりと固定する(2カ所)。

マグネットタイプのドライバーの先端にねじを付けて、まっすぐに締めてください。ねじの大きさに合ったドライバーを使用してください。



お願い

必ず付属 (M3 x 6 mm) ねじで固定してください。固定しなかったり、指定以外のねじをご使用になると、故障や破損の原因になります。

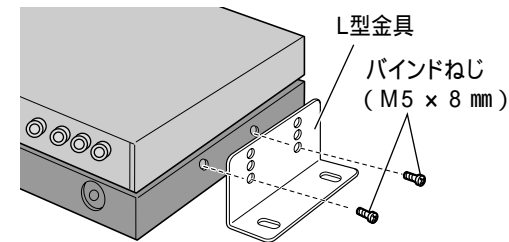
2 車両に取り付ける

準備 設置面の汚れ (ごみ、油など) をきれいに拭き取り、湿気を乾かしてください。

L型金具で取り付ける場合

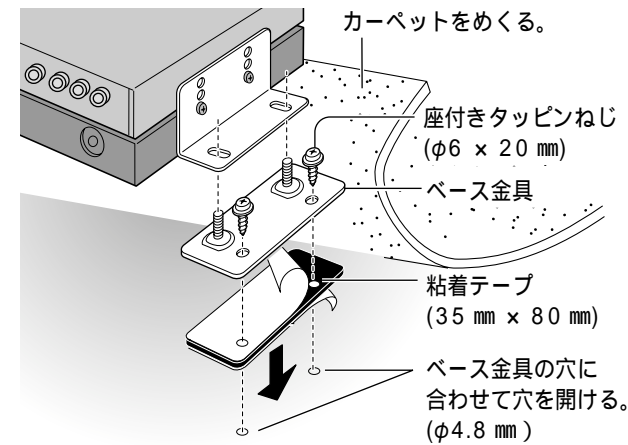
左右両側とも、同様に取り付けてください。

① L型金具を取り付ける。



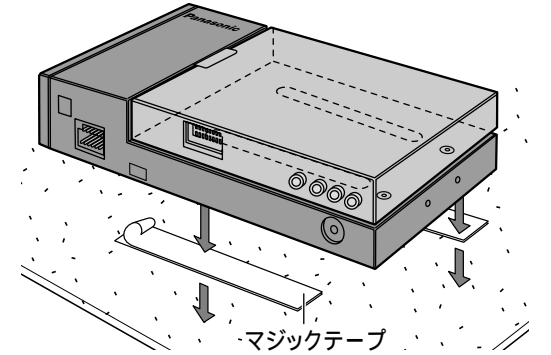
② ベース金具を床に取り付ける。

L型金具の穴に合わせてください。
穴あけ加工部とタッピンねじに防錆剤を塗ってください。



マジックテープで取り付ける場合

カーペットの種類によっては、取り付けられない場合があります。



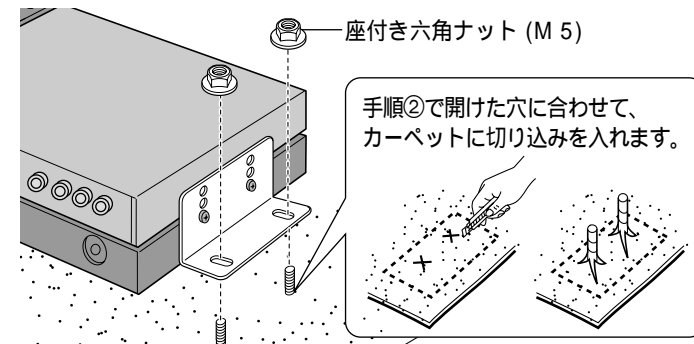
取り付け位置の確認

なるべく水平になるように取り付けてください。

故障の原因になりますので、以下の場所へ取り付けないでください。

- ・直射日光のあたる場所やダッシュボード、リアトレイなどの著しく熱くなる場所
- ・水のかかるところ、足でふまれるところ
- ・エアコンの吹き出し口や発熱する物の近く
- ・ほこりの多いところ

③ AVマスターユニット本体を、ベース金具に取り付ける。



お願い

必ず付属ねじを使用してください。

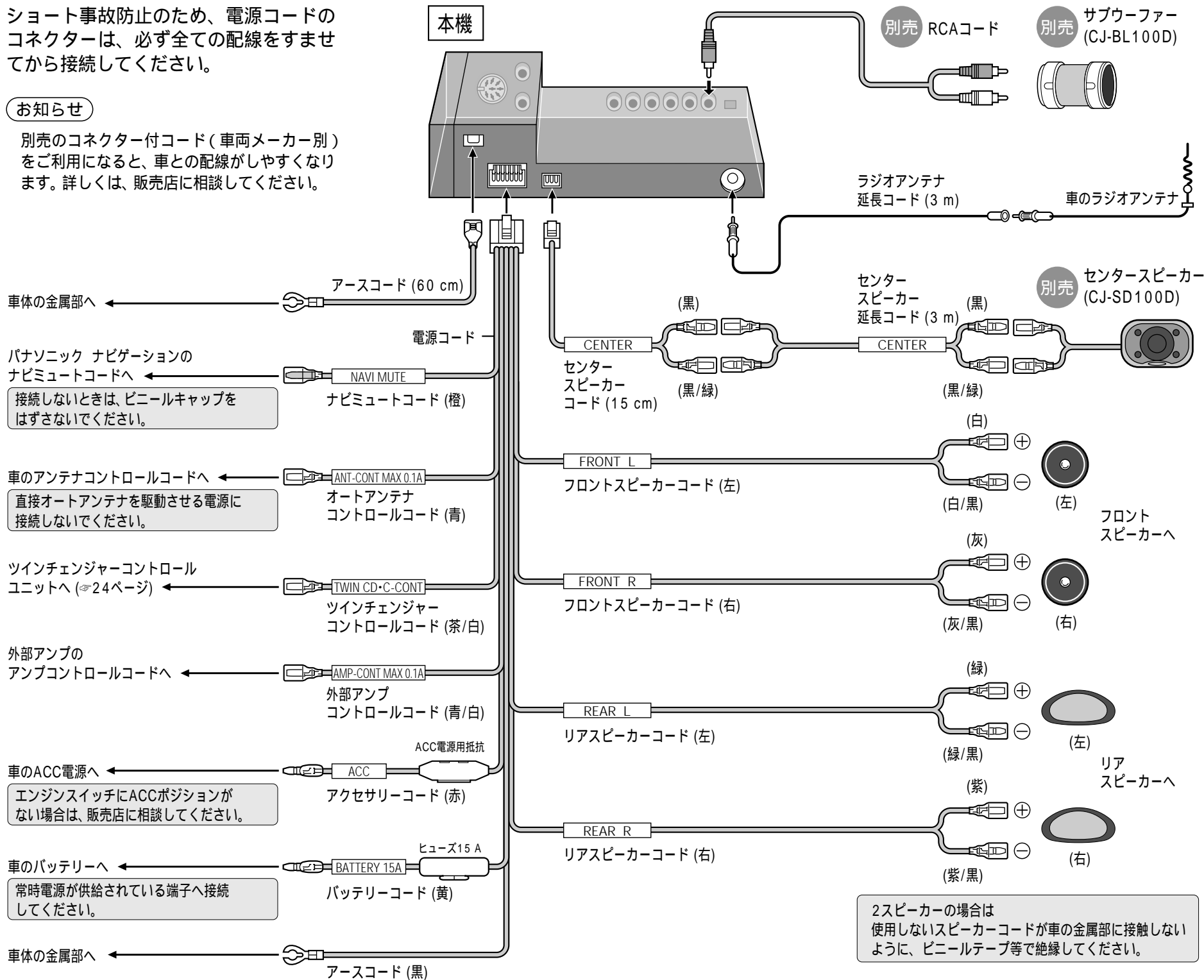
配線のしかた

基本配線 (付属コードの接続)

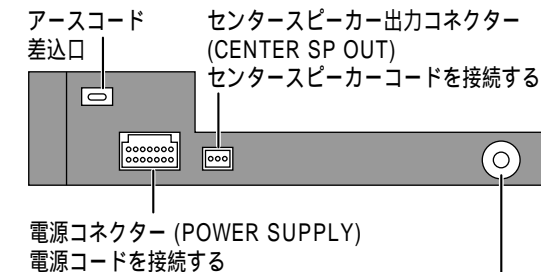
ショート事故防止のため、電源コードのコネクターは、必ず全ての配線をすませてから接続してください。

お知らせ

別売のコネクター付コード(車両メーカー別)をご利用になると、車との配線がしやすくなります。詳しくは、販売店に相談してください。



後面

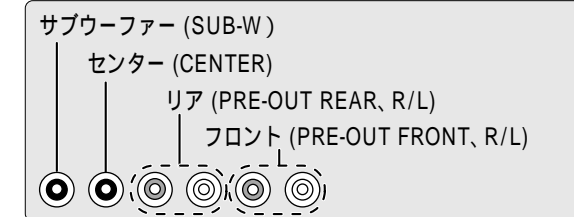


ラジオアンテナ入力端子 (RADIO ANT IN)
ラジオアンテナを接続する

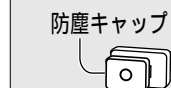
長さがたりないときは、ラジオアンテナ延長コードを使用してください。

前面

プリアウト端子
外部アンプを接続する場合に使用してください。
(22ページ)



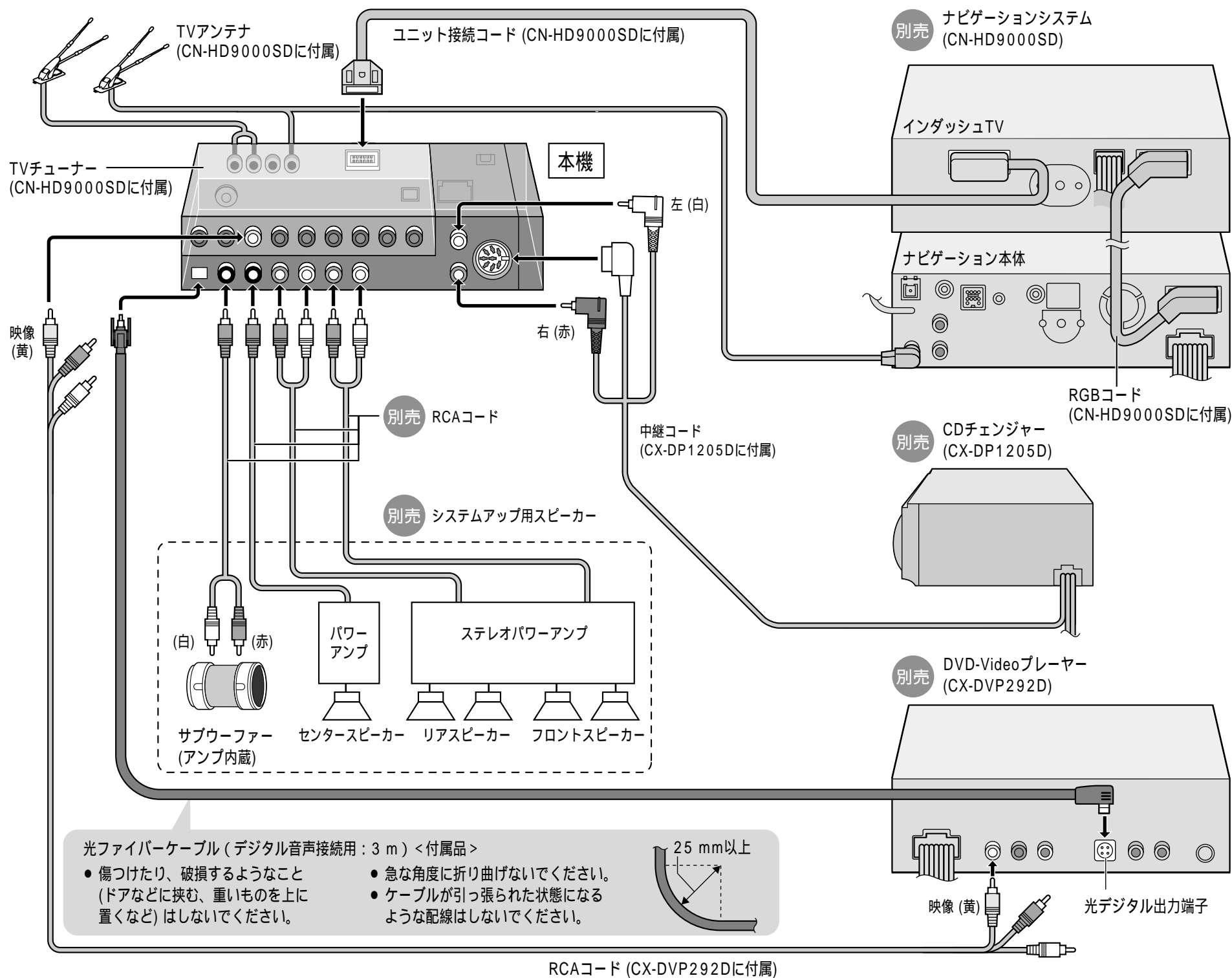
接続しないときは、防塵キャップをはずさないでください。



端子の色区分

- ◎ 白.....音声 (左)
- ◎ 赤.....音声 (右)
- ◎ 黒

ナビゲーションなどを接続する



接続する各機器の取付説明書も、併せてご覧ください。

例)

- 7V型ワイドVGAインダッシュテレビ付HDDカーナビゲーションシステム (CN-HD9000SD)
- DVD-Videoプレーヤー (CX-DVP292D)
- CDチェンジャー (CX-DP1205D)
- システムアップ用スピーカー

必ず付属の光ファイバーケーブル (デジタル音声接続用) で接続してください。

お願い

各機器を重ねて取り付けしないでください。

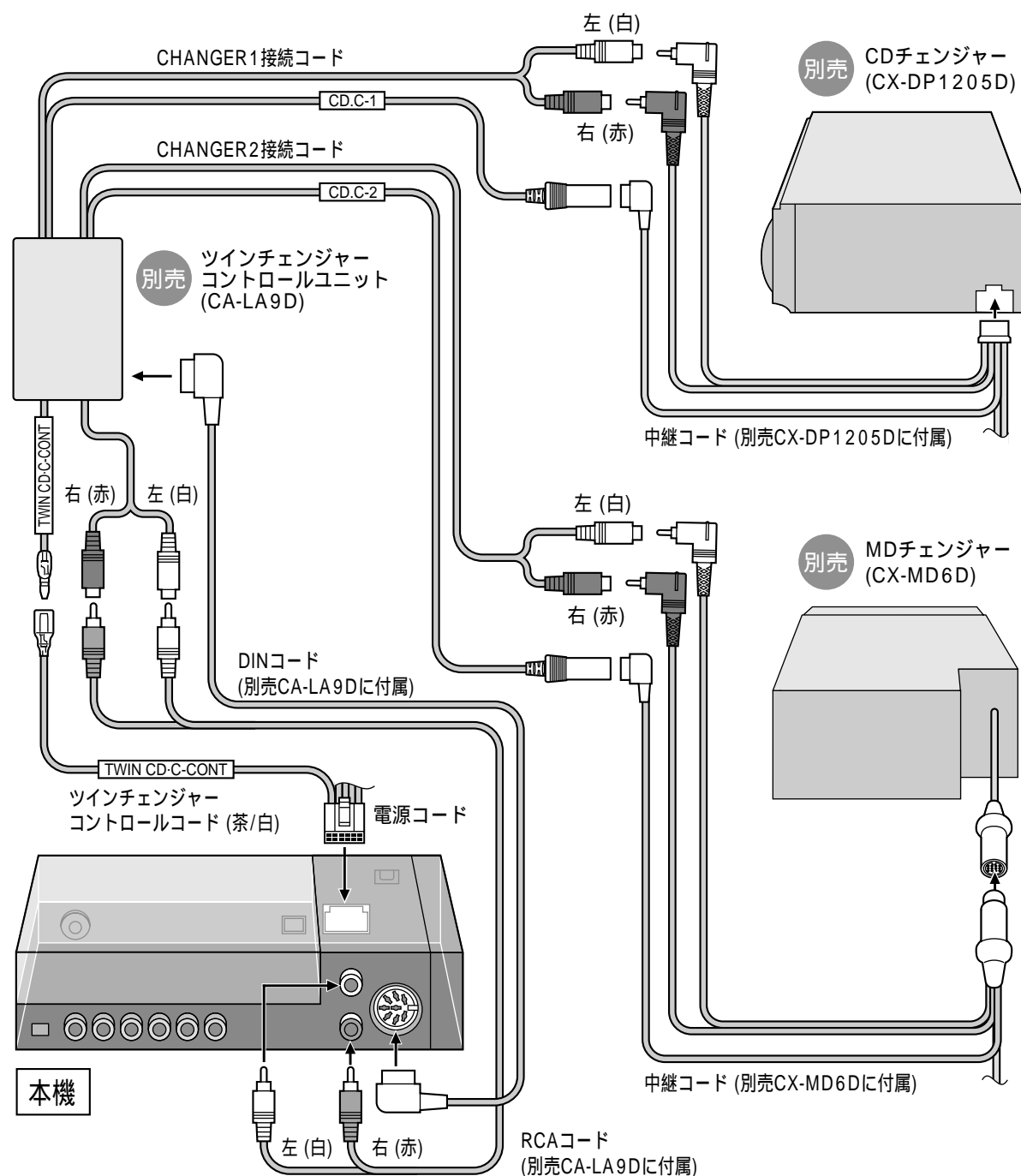
お知らせ

本機をCN-HD9000SDに接続すると、インダッシュTV (TVチューナー) のプリアウト端子からは音声が出されなくなります。2台目のモニターなどを接続する場合には、本機のプリアウト端子 (FRONT) に接続しなおしてください。

2台のチェンジャーを接続する (ツインチェンジャー)

接続する各機器の取付説明書も、併せてご覧ください。

例) CDチェンジャー (CX-DP1205D) MDチェンジャー (CX-MD6D)
ツインチェンジャーコントロールユニット (CA-LA9D)



症状

電源・共通

接続した機器の電源が切れる
音が出ない(再生できない)
突然、音が出なくなる

スピーカー(フロント/リア/
センター)から音が出ない

サブウーファーから音が出ない

原因と処置

ページ

各コードの接続を確認してください。
本機、または接続した機器のヒューズが切れている。
お買い上げの販売店、またはお近くの「ご相談窓口」(別紙)にヒューズの交換を依頼してください。
本機とTVチューナーをしっかりと接続してください。

各コードの接続を確認してください。
スピーカー設定によって、音が出られなくなります。
詳しくは、接続した機器の説明書をご覧ください。

サブウーファーのチャンネルがあるディスクを再生している場合
スピーカー設定で、サブウーファーが「NO」に設定されている。
サブウーファーを「YES」に設定してください。
ダウンミックスしている。
故障ではありません。
サブウーファーから音声を出力するには、ダウンミックスを解除してください。

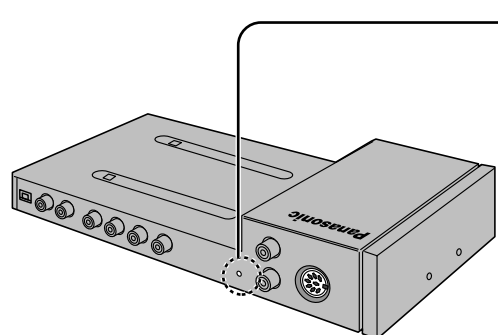
サブウーファーのチャンネルがないディスクを再生している場合
またはアナログ音声を再生している場合
スピーカー設定で、サブウーファーが「NO」に設定されている。
サブウーファーを「YES」に設定してください。
サラウンド設定が「ON」になっている。
故障ではありません。
サブウーファーから音声を出力するには、サラウンド設定を「OFF」にして、音場(SPACE)設定を「OFF」または「VOCAL」以外に設定してください。

音場(SPACE)設定が「OFF」または「VOCAL」になっている。
故障ではありません。
サブウーファーから音声を出力するには、音場(SPACE)設定を「OFF」または「VOCAL」以外に設定してください。
1 ch、3 ch、4 ch、5 chで収録されたディスクを再生している。
故障ではありません。
これらのディスク再生時は、サブウーファーから音声が出力されません。

症状	原因と処置	ページ
ラジオ		
ラジオが受信できない ノイズが多い	ラジオアンテナが十分に伸びているかを確認してください。 オートアンテナコントロールコードの接続を確認してください。	— 20
DVD		
DVDビデオ再生の音量が小さい	音楽CDとDVDビデオの録音レベルには差があります。 DVDビデオ再生時には音楽CD再生時よりも音量を上げてください。	—

どのボタンを押しても動作しない場合は

車のエンジンをかけなおすか、またはACC電源を入れなおしてください。
動作しない場合には、接続した機器のリセットスイッチを押してください。
それでも動作しない場合には、本機のリセットスイッチを押してください。



リセットスイッチ
折れにくい棒状のもので、まっすぐに軽く押してください。
(強く押すと、故障の原因になります)

電源が切れ、初期の状態に戻ります。
記憶した内容や設定が解除されますので、もう一度、
設定・調整しなおしてください。

リセットしても正常に戻らない場合は
お買い上げの販売店、またはお近くの「ご相談窓口」
(別紙)に修理を依頼してください。

万一、故障や異常が起きたら

すぐに電源を切ってください。
煙が出ていないこと、熱くないことを確認してから電源の接続をはずし、お買い上げの販売店、
またはお近くの「ご相談窓口」(別紙)に修理を依頼してください。
お客様による修理は、絶対におやめください。

お手入れのしかた

本機が汚れたときは

電源を切ってから、乾いた柔らかい布で拭いてください。
ベンジンやシンナー類を使うとケースや塗装が変質しますので、使用しないでください。
化学ぞうきんをご使用になる場合は、使用上の注意をよく読み、必ずお守りください。



使用しない

共通部

電源電圧	: DC 12 V (11 V ~ 16 V)、⊖アース (試験電圧 14.4 V)
消費電流	: 10 A以下 (CD動作定格出力時)
定格出力	: 18 W × 4 CH + 12 W (1 kHz、1 %、4)
最大出力	: 45 W × 4 CH + 35 W (16 V時)
適合スピーカーインピーダンス	: 4
プリアウト出力電圧	: 2 Vrms (CD/MDチェンジャー)
プリアウト出力インピーダンス	: 600
外形寸法/質量	: 幅245 × 高さ42 × 奥行き150 (mm)/1.2 kg

FMチューナー部

受信周波数	: 76.0 MHz ~ 89.9 MHz
実用感度 (S/N 30 dB)	: 12 dBf
S/N比 (MONO)	: 70 dB
ステレオ分離度	: 35 dB

AMチューナー部

受信周波数	: 522 kHz ~ 1 629 kHz
イメージ妨害比	: 65 dB

オーディオ部

出力電圧/インピーダンス	: 2 Vrms (EIAJ)/600	
周波数特性 (LARGE選択時)	: フロントL/R、センター、リア (サラウンド) L/R : 20 Hz ~ 20 kHz、± 1 dB	
ディレイ時間	: ドルビーデジタル	
	センター	: 0 ~ 5 ms
	リア (サラウンド) L/R	: 0 ~ 15 ms
	ドルビープロロジック	リア (サラウンド) L/R : 15 ~ 30 ms
ひずみ率 (PRE-OUT)	: フロントL/R (1 kHz、0 dB、PCM入力) : 0.01 %	
ダイナミックレンジ	: 95 dB (EIAJ)	
S/N比 (PRE-OUT)	: 100 dB (EIAJ)	

製品仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

本機は、ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
「DOLBY」, 「ドルビー」, 「PRO LOGIC」, およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

本機は、米国DTS社からの実施権に基づき製造されています。
合衆国特許No.5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762。海外特許申請中。
「DTS」および「DTSデジタルサラウンド」は、DTS社の登録商標です。
著作権1996年、2000年DTS社。不許複製。

「NAVI」「ナビ」は登録商標です。

アフターサービスについて

保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのあと、大切に保存してください。

保証期間：お買い上げ日から1年間

修理を依頼される時

「故障かな!？」の項目に従ってご確認ください。なおらないときには、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。お買い上げの販売店にご依頼になれない場合には、お近くの「ご相談窓口」(別紙)へご連絡ください。

保証期間中は

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店が修理をさせていただきます。恐れ入りますが、製品に保証書を添えてお買い上げの販売店にご持参ください。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理をさせていただきます。

補修用性能部品の保有期間

本製品の補修用性能部品(機能を維持するために必要な部品)は、製造打ち切り後6年保有しています。

修理・お取り扱いなどのご相談は...
お買い上げの販売店 または
お近くの「ご相談窓口」(別紙)へ
その他のお問い合わせは...
「お客様相談センター」へ

お客様相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-50-8729** Go パナソニック
FAX **045-939-1939**
受付 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日・弊社休日を除く)

この説明書は、再生紙を使用しています。



この取扱説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

お買い上げ日	年 月 日	品番	CA-TU9200D
販売店名	i ()	-	
お客様 ご相談窓口	i ()	-	

松下電器産業株式会社

松下通信工業株式会社 カーシステムビジネスユニット

〒224-8539 横浜市都筑区佐江戸町600番地

YEFM283897

F0402-0